

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		10/28~11/4	11/4~11/11	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.049	0.021
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.029	0.027
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.027	0.051
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.039
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.037
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.045	0.023
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	0.049
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.032	0.055

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		10/28~11/4	11/4~11/11	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.017	0.023
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.020	0.020

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

市内の大気浮遊じん中のセシウム137濃度は、平均値が0.03mBq/m³と極めて低い濃度であり、健康影響について心配はいりません。

コロナウイルスは放射性物質と同じように目に見えませんが、その影響は“あっ”という間に世界中に広がって、死亡者数も140万人に迫り、日本では第三波が押し寄せて、一向に収まる気配がありません。こうした危機から自分の身を守るためには、原発事故の時に学んだように「目の前に展開される状況を科学的・論理的に理解し、知り尽くす」ことに努めたいものです。